

2021年6月21日

「2020 東京オリンピック・パラリンピック アジア・オセアニア大陸予選」参加報告書

World Rowing Umpire (1793)

東京都ボート協会

成田泰久

1. はじめに

2021年5月2日(日)～7日(金)に海の森水上競技場(江東区海の森)にて開催された「2020 東京オリンピック・パラリンピック アジア・オセアニア大陸予選」の国際審判員として、大会運営のサポートを行ってまいりましたのでご報告いたします。

東京都内に緊急事態宣言発令中のコロナ禍での厳しい状況下において、関係する方々の多大なるご理解、ご協力をいただきましたことを改めて感謝いたします。

2. 経緯について

本大会は、2020 東京オリンピック・パラリンピック アジア・オセアニア大陸予選として、当初、2020年4月に韓国の忠洲にて開催予定をされていたものでした。周知のように2020年の年明け頃より、中国湖北省武漢市を発症起源とされる「新型コロナウイルス(COVID-19)」の感染拡大は、世界中に拡散しました。そのため、各地で予定されていた大会は、悉く中止を迫られました。韓国国内でも感染状況が、深刻さを増していたため韓国側が大会開催を返上となりました。

状況を見守っておりましたが、翌年に国際ボート連盟(World Rowing)から日本側への開催要請を受け、東京オリンピック会場となる海の森水上競技場(江東区海の森)での開催決定に至りました。決定から開催に至るまで、各国の感染状況、ワクチン接種状況、空港等での水際対策などを勘案するものでしたが、準備期間が短く、感染対策を大前提におき、無観客での開催といった未だかつてない国際大会の始まりとなりました。

3. 会場について



会場アクセス



海の森水上競技場(江東区海の森)全体図

4. 派遣について

韓国での開催予定であった当初は、日本から私を含む 2 名の ITO 派遣 (International Technical Official / 国際審判員) となっていました。しかし、各国のコロナ禍での感染対策や水際対策により、インド、ミャンマー、フィリピン、タイなどの ITO が影響を受け、出国が出来なかったり、飛行機手配が出来なかったり、帰国時の長期の隔離期間を強いられる等の様々な要因からキャンセルが相次ぐ異例な状況が続きました。唯一の海外参加となった KAY Dong Hoon (KOR) は、選手団と一緒に行動をすることで入国許可を応諾されたようでした。

そのため、当初参加予定のなかった国内在住の国際審判員を総動員し、最終的に 10 名 (日本 9 名 + 韓国 1 名) にて、ITO (International Technical Official / 国際審判員) を構成し、大会サポートを行うことになりました。

ITO 15 名(当初)		ITO 10 名(最終)		
@韓国 / 忠洲 弾琴湖国際ボート場		@日本 / 東京 海の森水上競技場		
<u>President of the Jury</u>		<u>President of the Jury</u>		
SENDA Takao	JPN	SENDA Takao	JPN	1230
<u>Deputy President of the Jury</u>		<u>Deputy President of the Jury</u>		
HUNTER Nick	AUS	N/A	N/A	
<u>Members</u>		<u>Members</u>		
KLUPACS Rene	AUS	NARITA Yasuhisa	JPN	1793
GUPTA Sandeep	IND	KAY Dong Hoon	KOR	1635
YADAV Smita	IND	ICHIKAWA Manami	JPN	1781
NARITA Yasuhisa	JPN	SATO Yutaka	JPN	1374
HAN Kyungwan	KOR	TABATA Yoshihiko	JPN	1265
KAY Dong Hoon	KOR	TAKEUCHI Hirohito	JPN	1266
NAM Sang Lan	KOR	TSUKADA Hideki	JPN	1628
HTAY Yin Min	MYA	MATSUDA Masahiko	JPN	1614
KHAING Mon Mon	MYA	TANAKA Hiroshi	JPN	1375
MOLLY Markus	NZL			
DIZON Marciano III	PHI			
LERIN Jercyl	PHI			
PHONGPHANPHANEE	THA			

5. 大会主旨について

本大会は、2021 年夏季開催予定の東京オリンピック・パラリンピックのアジア・オセアニア大陸予選として下記種目の上位入賞にて出場枠獲得を目指すこととなります。一方で各国 2 枠の上限設定が定められており、種目毎の出場枠内に入賞したとしても、国内での協議にて 2 枠に絞らざるえない、もうひとつの厳しい選考があります。



今回、出場権を獲得できなかった場合、5月15日～17日のスイスのルツェルンで他種目の選考も併催される「2020 東京オリンピック世界最終予選」に参加して、上位2位までに入賞することで出場権獲得を目指すことになります。

【本大会でのオリンピック出場権枠】

- M1X(男子シングルスカル) = 5 枠
- W1X(女子シングルスカル) = 5 枠
- LM2X(軽量級男子ダブルスカル) = 3 枠
- LW2X(軽量級女子ダブルスカル) = 3 枠

【本大会でのパラリンピック出場権枠】

- PR1M1X(パラローイング男子シングルスカル) = 1 枠
- PR1W1X(パラローイング女子シングルスカル) = 1 枠

6. 参加国及び参加者について

- (1) アジア・オセアニア大陸の国際ボート連盟(World Rowing)加盟国 50ヶ国の内、19ヶ国
- (2) 選手及びチーム関係者: 約 150 名 (内訳: 選手約 90 名 + チーム関係者約 60 名)

No	フレード	略語	国名	No	フレード	略語	国名
1		JPN	日本	14		VIE	ベトナム
2		KSA	サウジアラビア	15		VAN	バヌアツ
3		KOR	韓国	16		SRI	スリランカ
4		HKG	香港	17		TPE	台湾
5		IND	インド	18		IRQ	イラク
6		INA	インドネシア	19		UAE	アラブ首長国連邦
7		IRI	イラン	20		KWT	クウェート
8		KAZ	カザフスタン	21			
9		UZB	ウズベキスタン	22			
10		PHI	フィリピン	23			
11		QAT	カタール	24			
12		SGP	シンガポール	25			
13		THA	タイ	26			

不参加

7. 日本代表選手について

https://www.iara.or.jp/national/2021/202105007_asian_oceanian_TOKYO2020_qualification.html

- M1X: 荒川龍太(一橋大→NTT 東日本)
- W1X: 米川志保(早稲田大→トヨタ自動車)

LM2X: 西村光生(仙台大→アイリスオーヤマ)・古田直輝(明治大→NTT 東日本)
 LW2X: 大石綾美(早稲田大→アイリスオーヤマ)・富田千愛(明治大→関西電力)
 PR1W1X: 市川友美(三菱UFJビジネスパートナー)

8. 新型コロナウイルス対応について

(1)国際ボート連盟(World Rowing)は、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染対策のため、「バブル方式」と称する行動規定を作成し、宿泊施設、食事、移動ではバブルでの活動を基本として、他チームや国内ボランティアへの接触がないようにしました。

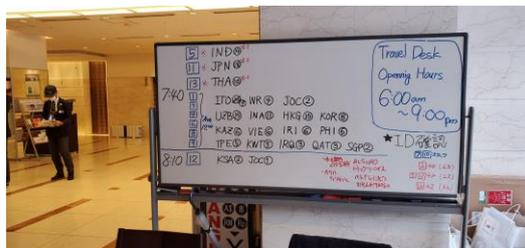
また、会場でも参加者をカテゴリー区分し、活動可能エリアを厳格に制限することで、万が一、感染症の疑いが発生した際にも被害を最小限に抑える方針としました。

(2)海外選手及び関係者は、出国前および空港検疫にてコロナ検査を実施し来日に備えました。空港からホテルまで送迎バスを利用することで公共交通機関は利用せず、ホテルからの外出も禁止されました。また、ホテルから海の森水上競技場までも送迎バスを利用することで、関係者以外との接触がないような仕組みとなっていました。

また、スマートフォンにて「行動管理アプリ(厚生労働省)」を利用し、位置情報を提示する必要がありました。



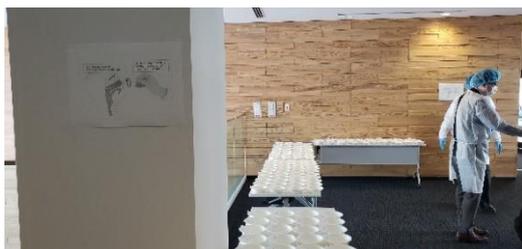
防護服姿で到着した海外選手・関係者



ホテルからもバスに分散乗車し会場へ

(3)国内関係者も14日前から健康管理チェックを行い、自宅にてコロナ検査(唾液採取方式)を行いました。

(4)大会期間中は、予選を翌日に控えた5月4日に選手および関係者にコロナ検査を行いました(合計320名)。結果は、全員「陰性」結果となり大会主催者は、安堵したとのことでした。



コロナ検査(受付)



コロナ検査(検査場)

(5)5月5日は、あいにく朝から強風と小雨がちらつく悪天候にて、当初の予選を翌日に繰り越すことになりました。そのため、大会規定にあった予選を翌日に控えた日に「コロナ検査を行う」と

の規定に沿い、急遽「コロナ検査」を行うことになりました。

しかし、この「コロナ検査」で想定外のことが発生しました。スリランカのパラ種目関係者から「陽性反応」の結果が出ました。検査者は、まさかと思って協議を重ねたようです。昨日まで3回のコロナ検査を実施し「陰性」だったのですから、今回「陽性」になることは、「擬陽性の疑い」、もしくは潜伏期間を得て「陽性になった」可能性がありました。インド国内で酸素不足に陥るインド型変異種が猛威を奮っており、隣国スリランカの方の陽性反応にて動揺が走りました。

その後、すぐに隔離措置が取られたのですが、私たち ITO に心配なことがありました。スリランカのパラ種目関係者に、今回は審判業務に携わらない国際審判員がいました。久しぶりの再会であったため、私も含め何名かは、その方と会話をしていました。不安な状況を抱えながらも、その他の参加者全員は、陰性であったことを勘案し、感染対策をとりながら大会を継続となりました。

五輪パラ予選 同僚コロナ陽性でも出場 OK 悩ましいある事情

5/7(金) 17:58 配信

38

毎日新聞



スリランカのスタッフ1人が新型コロナウイルスの陽性判定を受けたため、レース後、同国選手がボートから降りる際に防護具を着用して対応する関係者＝東京都江東区の海の森水上競技場で2021年5月7日、佐々木順一撮影

5月5日のコロナ検査にてスリランカのパラ種目関係者から「陽性反応」結果あり、5月6日の Preliminary (レーン決めレース) を欠場。5月7日の決勝に参加し優勝。パラリンピック出場権獲得。

栈橋にて Fay HO(HKG) / Fairness Committee、Mike TANNER(HKG) / Fairness Committee が、選手を対応！

5月7日の新聞記事

(6)このことをきっかけに、感染対策の再度の強化が図られました。

- ①選手は、ボートに乗り込むまでの陸上では、必ずマスクを着用すること。
- ②スタート前のポンツーンにて、選手が使用したペットボトルをボートホルダーに投げないこと。
- ③「バブル方式」を徹底し、感染拡大を抑える行動をとること。

9. 設備について

(1)本大会のような国際大会には、本来 OMEGA の子会社 Swiss Timing(競技会計時専門会社)が、スタート(0m)からフィニッシュ(2000m)までの計測を担います。スタート前は、「Rising Start System」を使用することで艇の先端を合わせ、フライングを防ぎ、スタートと同時に「Rising Start System」が解除され計測が始まります。フィニッシュ時は、スリットカメラ使用に

よる写真判定システムにて 1/1000 秒まで判定可能となっています。また、GPS を艇の甲板部分に設置し、艇速や順位などを即座に把握することが可能です。



(2)しかし、蔓延するコロナ禍にて来日が困難との結論になり、急遽、日本側で施設・設備等の対応をせざるを得ない状況となりました。そこで、従来の国内大会で使用している日本ボート協会の写真判定システムおよび東京都ボート協会の光発艇システムにて対応を行いました。

Swiss Timing の使用するシステムと同様にすることは、難しいものの NG Wing-Ning, Victor (HKG)／Technical Delegate らの技術指導を受けながら設備等の対応を行いました。

(3)コースレーンの配置は、本来であれば Starter の左側から 0、1、2～6、7、8 レーンとなります。しかし、海の森水上競技場は、オリンピック開催時のテレビ映りを考慮して右側から 0、1、2～6、7、8 となっています。(テレビ映りとしては、画面上から下に 0、1、2～6、7、8 レーンとなる)。皆さんも感覚が違うため、違和感を覚えながらも慣れるように対応をしていました。また、選手をレーンへ誘導する呼び込み順位も待機場所から奥になる 8、7 レーンの順になることも通常と違うため注意を要します。

(4)各設備の詳細及び使用状況は、以下の「10. 稼働内容について」にて説明をします。

10. 稼働内容について

<5月1日(1日目)>

- ・ホテル着→ITO ミーティング

- ※ITO 間の連絡は、無料通信アプリ「What's App」を入国前から利用し情報共有

<5月2日(2日目)>

- ・フィニッシュエリアの設備等確認(写真判定システム、スリットカメラ、判定台、判定ブザー等)

- ・Photo Book (選手登録票)を作成(World Rowing に提出されている選手写真を利用)

- (Control Comm.(Out)、ドーピングコントロール時に使用)

- ・ボートステッカーを配布(World Rowing+国名)

- (選手に艇への貼付位置も指導)

<5月3日(3日目)>

- ・2021 RULES OF RACING UPDATE セミナー(World Rowing Rule 改訂)

- ・スタートエリアの設備等確認(光発艇装置の操作、ランプ点灯、ブザー音量等)
- ・コースが、羽田空港へ着陸する航空路の真下となっており、騒音で集中できない可能性あり。
 (風向きによる航路決定→風向きや時間帯により航空路とならない場合もあり)



各レーンに光発艇配置・レーン逆順配置

着陸態勢の航空機がコース上を通過

<5月4日(4日目)>

- ・コロナ検査→選手・関係者全員「陰性」
- ・Practice Start スタート練習を希望する選手に実施。
 (ITO も光発艇装置の操作、ランプ点灯、ブザー音量等の確認を実施)
- ・チームマネージャーミーティング(今回は、ZOOM にてオンライン実施)

<5月5日(5日目)>

- ・本日は、Heats(予選)予定あったが、悪天候にて翌日に延期。

選手インフォメーションにてアナウンス
 (Boat House の中央)
 5月5日は、「No Race Today」と掲示

ボート東京五輪アジア・オセアニア大陸予選、5日は強風で競技せず

5/5(水) 10:05 配信 4

日刊スポーツ

世界ボート連盟は5日、東京・海の森水上競技場で開幕予定だった東京オリンピック(五輪)アジア・オセアニア大陸予選について、荒天のため初日の5日は競技を行わず、6、7日の2日間で実施すると発表した。中止を決めた時点で雨は降っていなかったが、強風が吹き付けていた。

【写真】ボートの東京2020オリンピック・パラリンピックアジアオセアニア大陸予選は荒天のため順延となった

5日に行うはずだった各種目の予選や敗者復活戦は6日にスライド。2日目に予定されていた男女シングルスカル準決勝は調整の結果、7日の各種目の決勝前に相まれた。東京五輪とパラリンピックの出場切符が懸かる今大会には、18の国と地域から約80選手が参加する。

五輪会場として東京湾の埋め立て地に新設された同競技場は、風や波の影響を受けやすいとされる。

5月5日の新聞記事

- ・コロナ検査→スリランカのパラ種目関係者(1名)の「陽性」確認
- ・チームマネージャーミーティング(今回は、ZOOM にてオンライン実施)
- ・海岸の天気、風向、風速予報は、KUMAMOTO Koji (JPN) / Fairness Committee より
 下記を利用しているとのアドバイスあり、今後の本施設での大会開催時に参考としたい。
 「海天気.JP」 <https://www.umitenki.jp/>

<5月6日(6日目)>

- ・昨日から延期された Heats(予選)、Preliminary(レーン決めレース)、Reps(敗者復活)実施。
- ・チームマネージャーミーティング(今回は、ZOOMにてオンライン実施)

<5月7日(7日目)>

- ・Finals(順位決定、決勝)実施。
- ・コロナ検査実施。

<5月8日(8日目)>

- ・帰国、帰宅(※5月7日に帰宅する人もあり)
- ・選手・関係者は、国により帰国後2週間隔離をされる等、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大回避の対応となりました。

11. 各部署について

本来であれば、全部署を ITO が担当するが、今回は、人数不足にて NTO にも補助いただく。本来の役割を記載しつつ、本大会にて対応した部分を記載したいと思います。

(NTO: National Technical Official / 国内審判員)

【Starter / Assistant Starter】

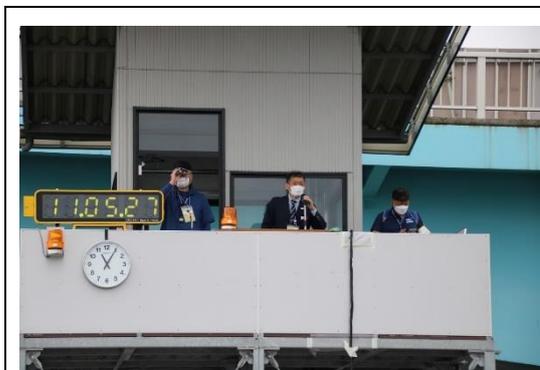
<Starter> (発艇長)

- ・ポンツーンへ選手の呼び込み(国内では、Assistant Starter が対応)。
- ・5分前~2分前カウントダウンを実施。発艇定刻2分前の回転灯信号を点灯。
- ・ロールコールにて国名読上げ、「アテンション」をかけ赤ボタンを押して「赤ランプ」、青ボタンを押して「青ランプ」+「ビーツ」。

(シングルスカルの場合、選手名をコールするが、本大会は、国代表のために国名をコール)

<Assistant Starter> (発艇) (今回は NTO 対応)

- ・Starter の補助。双眼鏡にて待機場所のクルー到着を確認。



Assistant Starter・Starter (発艇)



光発艇の操作盤

【Judge at the Start】

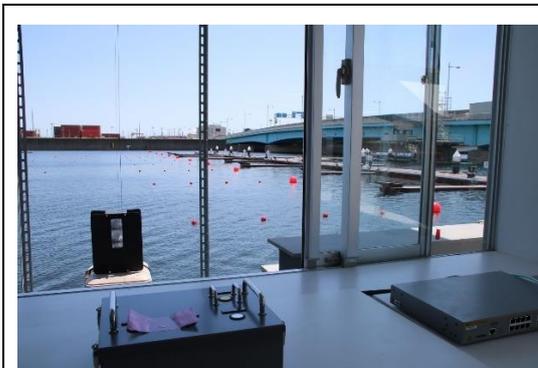
<Aligner> (今回は NTO 対応)

- ・各レーンのボートホルダーに無線を使用して日本語で指示し、艇首を揃える。

- ・本大会のボートホルダーは、大学生（関東漕艇学生連盟／各大学ボート部）が対応。

<Judge at the Start>（線審）

- ・艇首が揃ったことを確認し、白ランプを点灯。今回は、白旗を掲げて対応。
 （国内の号令動作では、白地に赤×を使用するが、国際ルールは、白地のみ）
- ・フォルススタートを判断した場合、「False Start」ボタンを押下。
 本来であれば、モニターを確認しながら判断するが、今回は、スリット確認にて目視で実施。
 ※対岸とスリットの再調整が必要である。



Judge at the Start（線審）



大学生がボートホルダーを担う

【Finish Judge／Responsible Judge at the Finish】

<Finish Judge>（判定）（今回は NTO 対応）

- ・フィニッシュラインを通過した通過順にバウナンバーをコールし、都度ブザーを鳴らします。
 （コースの状況により使用するレーンが異なる場合があります。1レーン≠バウナンバー1）
- ・全てのレース艇がフィニッシュし、追行した Umpire（主審）から、白旗が掲げられたことを確認することで、「White lamp」と声を発し、白ランプを点灯。着順の作成作業が開始可能になったことを判定塔（フィニッシュタワー）内で共有します。今回は、「White Flag」と声を発し、白旗を掲げることで対応しました。

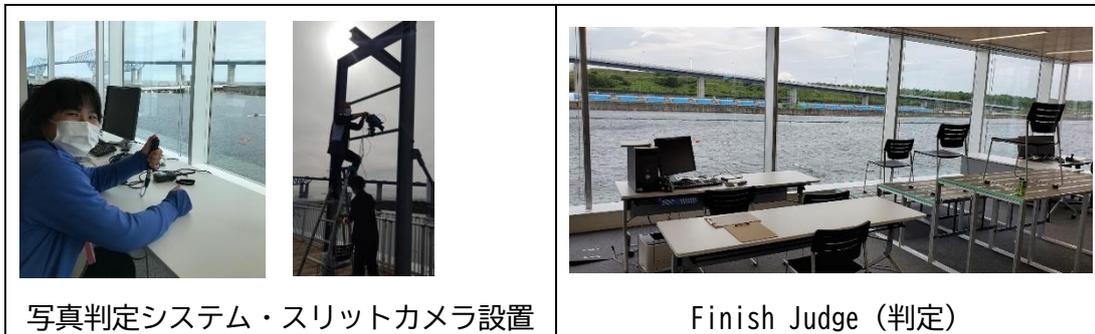
<Responsible Judge at the Finish>（判定長）

- ・レースが近づいたら（1900m 位）、「Race ○○, Coming」とコールし、判定塔（フィニッシュタワー）内を静粛にさせ、レースに集中させます。自身は、モニター越しにレース艇の着順確認をするため、直接フィニッシュラインを見ることはしません。
- ・本大会では、Results Sheet の記入と確認手順を下記のように実施しました。
 Finish Judge の通過順コールを聞きながら、写真判定へのライン入力をモニター上で確認。
 写真判定を印刷してもらい、各地点（500m、1000m、1500m）中間計時を入力依頼します。
- ・全てをチェックした上で、問題なければ Results Sheet にサインします。
 その後、「Race ○○, Official !」とコールし、レースの成立を宣言します。

※Results Sheet の確認手順

- (1)ヘッダー部分のチェック（種目、ラウンド、レース No. など）
- (2)通過順とモニターとのチェック（バウナンバー）

- (3)クルー名のチェック(1位から順になっているか、国名は正しいか)
- (4)フィニッシュタイムのチェック(異常値はないか)
- (5)中間タイム(500m、1000m、1500m)をチェック(論理的矛盾が無いか)
 矛盾していた場合「DNA(Data not available)」とする
- (6)勝ち上がり数は、正しいかをチェック



【Control Commission】(監視)

<Responsible Control Commission> (監視長)

- ・Control Commission(OUT)、Control Commission(IN)、Athlete Weighing、Boat Weighing の監視部署の責任者。

<Control Commission(OUT)> (出艇棧橋監視)

※出艇棧橋での確認項目

- (1)クルーメンバーの確認(Photo Bookにて選手名、顔写真、シート順を照合)
- (2)ユニフォーム、ブレードの統一を確認
- (3)バウポール、ストレッチャーのヒールロープ設置を確認
- (4)出場レースの正しいバウナンバーの設置を確認
- (5)World Rowing+国名の順に正しくステッカーを貼付しているか
- (6)Advertising、Identificationのルールに沿っているか(違反時には、テープ等で隠す指示)
- (7)レース毎に全てのクルーが出艇したか



※本大会は、スポンサーに厳格なオリンピックでないため、広告規制は、World Rowing Rule に従う。また、本大会では、COX(舵手)付種目がないためデットウェイト確認は不要。



Outboard 部分には如何なる表示も不可



国別ブレード塗装できず（ホワイト）

<Control Commission (IN) > (帰艇棧橋監視) (今回は NTO 対応)

※帰艇棧橋での確認項目

(1) Boat Weighing 対象クルーへ艇計量指示(事前告知なし)

(2) ドーピングテストに選出されたクルーを特定(シャペロンへ指示)⇒シャペロンへ引き渡し

<Athlete Weighing> (選手計量) (今回は NTO 対応)

- ・本大会では、軽量級の種目(LM2X、LW2X)があるため、選手計量を実施。
- ・軽量級漕手の計量は、制限時間内(レース開始 2~1 時間前)であれば何度でも可。
- ・計量後、レーススケジュールが遅れたとしても計量時間はスライドせず、再計量の実施不要。
- ・今回は、COX(舵手)計量種目が無いが、ある場合には、デッドウェイトを用意する必要あり。

<Boat Weighing> (艇計量) (今回は NTO 対応)

- ・本会場用に桑野造船にて新調されたものを使用。
- ・Venue オープン時間中、レースを行っている時間帯を除いて、いつでも艇計量は可能。
- ・ITO や NTO が、艇計量に積極的に関与する必要なし。



Athlete Weighing (選手計量)
 小数第 2 位を覆い隠す対応



Boat Weighing (艇計量)

【Umpire】(主審)

- ・本大会は、全レース DYNAMIC UMPIRING (0~2000m を追行)で実施。
- ・追行するカタマランの「引き波」をレース艇にかぶせないよう、常に注意すること。
- ・入賞以外でも、出場権枠獲得に関与する場合あり、決してレース艇を追い抜かないこと。
- ・Finish 後のエリアに余裕が少ないため、出艇するクルーと混雑するため衝突を回避させる。

※PARA ローイングについて



- ・エントリーしているクルーの技量・漕力が予測できず、海の森コースは風・波が強くなることも、予想されるので、Umpire(主審)は、2艇にて対応すること。
 - ・PARA ローイングのルールに沿い対応(口頭も追加使用)。
- 【Board of Jury】(不服審査委員会)
- ・POJ(審判長)+2名(POJが指名)、毎日交代。
 - ・Protest(抗議/チームマネージャーからPOJに書面提出)に対して審議を行う。
- ※Objection(異議/クルーからUmpireに口頭申出)に対し、否認されたクルーもしくは、Objectionの受入にて不利益を被ったクルーが、書面提出できるもの(申立費用€100)。



<部署配置>

○6th May AM

Starter: TABATA、Judge Start: ICHIKAWA、Resp. Finish Judge: KAY
 Resp. Control Comm.: SATO、Control Comm. (Out): MATSUDA
 Umpire: TAKEUCHI、TSUKADA、TANAKA、NARITA
 Jury Board: SENDA、TABATA、SATO

○6th May PM

Starter: TANAKA、Judge Start: TAKEUCHI、Resp. Finish Judge: MATSUDA
 Resp. Control Comm.: TSUKADA、Control Comm. (Out): NARITA
 Umpire: SATO、TABATA、ICHIKAWA、KAY
 Jury Board: SENDA、TANAKA、TSUKADA

○7th May AM

Starter: SATO、Judge Start: NARITA、Resp. Finish Judge: TSUKADA
 Resp. Control Comm.: KAY、Control Comm. (Out): ICHIKAWA
 Umpire: TANAKA、TAKEUCHI、MATSUDA、TABATA
 Jury Board: SENDA、NARITA、KAY

○7th May PM

Starter: KAY、Judge Start: MATSUDA、Resp. Finish Judge: TANAKA



Resp. Control Comm.: TABATA, Control Comm. (Out): TAKEUCHI
 Umpire: NARITA, ICHIKAWA, TSUKADA, SATO
 Jury Board: SENDA, MATSUDA, TAKEUCHI

12. 結果について

日本代表チームは、オリンピック予選の LM2X(軽量級男子ダブルスカル)、LW2X(軽量級女子ダブルスカル)、M1X(男子シングルスカル)、W1X(女子シングルスカル)、パラリンピック予選の PR1W1X(パラローイング女子シングルスカル)の計 5 種目で優勝しました。

パラリンピック予選は、優勝することが出場権獲得の条件であったため、PR1W1X(パラローイング女子シングルスカル)の市川選手は、東京パラリンピックの出場権を獲得しました。

一方、オリンピック予選では、優勝したクルーが 2 種目以上あった場合でも最大 2 種目を日本ボート協会が選択する必要があります。これに伴い、レース終了後に海の森水上競技場で開いた日本ボート協会選考委員会において、世界最高水準タイムとの比較「%IDT(Ideal Time)」をもとに、LW2X(軽量級女子ダブルスカル)と M1X(男子シングルスカル)を選択しました。LW2X(軽量級女子ダブルスカル)の大石選手・富田選手は、2016 リオデジャネイロオリンピックに続いて 2 大会連続、M1X(男子シングルスカル)の荒川選手は、初のオリンピック出場となります。

LM2X(軽量級男子ダブルスカル)の西村選手・古田選手と W1X(女子シングルスカル)の米川選手は、5 月 15 日～17 日にスイスのルツェルンで開かれる「2020 東京オリンピック世界最終予選」に臨みます。世界最終予選では、2 位以上に入賞すると東京五輪出場権が与えられます。



Qualification Event
TOKYO 2020

Report generated at: 05/07/2021 14:26:26

DAILY RESULTS SUMMARY

Fri 7 May 2021

Race	Start Time	Event Code	Round	Rank						Progression System	
				1	2	3	4	5	6		
24	10:30	PR1 W1x	Final A	JPN	SRI						
				12:51.40	15:56.80						
29	13:40	LM2x	Final A	JPN	IND	UZB	INA	HKG	KAZ		
				6:34.70	6:36.92	6:38.27	6:38.55	6:45.79	6:54.54		
30	13:50	LW2x	Final A	JPN	VIE	IRI	INA	KOR	UZB		
				7:15.84	7:17.34	7:23.86	7:35.71	7:36.27	7:40.18		
31	14:00	M1x	Final A	JPN	IRI	KAZ	IND	UZB	VIE		
				7:01.59	7:08.98	7:09.85	7:10.42	7:17.96	7:34.11		
32	14:10	W1x	Final A	JPN	IRI	TPE	VIE	KAZ	KOR		
				7:43.13	7:50.53	7:58.78	7:58.86	8:03.19	8:05.55		

13. 本大会での反省事例等

- (1) ドーピングテスト対象クルーが、桟橋に艇をつけるところにシャペロンが大勢待機。明らかに通常とは違う雰囲気になってしまったことから、適切な配置が必要と思われた。

また、本クルーは、Boat Weighing の対象でもあった。希であるが、ドーピングテストと艇計量が重なるケースは、シャペロンやチームマネージャーと連携を図ることが重要であることを改めて認識。対象選手をドーピングテストに向かわせるものの、残りのクルーやチームマネージャーに艇計量を対応させる（艇計量を行うのは、必ずしもクルーメンバーである必要はない）。

(2) Boat Weighing 対象クルーが、棧橋に艇をつけたと同時に近くまで行き艇計量を指示した。すると、対象クルーから、クールダウンをもう少し行ってから艇計量に向かいたいとの申し出があった。艇計量対象クルーであることをすでに告げているし、いったん棧橋に戻って来てからの再クールダウン自体が認められていないので、許可しなかった。

(3) 上記事例から艇計量対象クルーに「対象告知」をする場所について再検証していきたい。

- a. 艇を水面からあげた瞬間→棧橋上で告知
- b. 艇を水面からあげる→艇を担いで棧橋を移動→棧橋から陸上へ移動した瞬間に告知

14. まとめ

コロナ禍にて悉く大会がなくなり往来が途絶えた環境で、各国国際審判員とも協力しオンライン講義・ディスカッションを通じて、ルール更改、知識向上などのアップデート行ってきました。また、World Rowing や Asian Rowing Federation 主催 Safeguarding Webinar の意識と教育の取り組みは、広まりつつあると確信しています。コロナ禍が一日でも早く終息することを願います。

ASIA AND OCEANIA OLYMPIC & PARALYMPIC QUALIFICATION IN ROWING COMPLETED IN PERFECT CONDITIONS

<https://worldrowing.com/2021/05/07/asia-and-oceania-olympic-paralympic-qualification-in-rowing-completed-in-perfect-conditions/>



以上